

熱帯西太平洋の新生代貝類の古生物研究【第2弾】

ビカリアの多様性を探る

フィリピン、インドネシアとマレーシアに囲まれた熱帯西太平洋の海域には大小さまざまな島があり、それらの周囲には美しいサンゴ礁が発達しています。この海域には、世界で最も多様な生物が生息しています。私の研究室では、フィリピンやインドネシアの新生代の貝類化石から、この海域の多様性の起源を明らかにする研究を進めています。今回は最近得られた成果の1つを紹介します。



専門は貝類化石の分類と古生態。現在のおもな研究は、熱帯西太平洋の海洋生物の多様性の起源を解明するため、フィリピンやインドネシアの新生代貝類の研究を進めている。そのほか東京大学大学院生物科学専攻の兼任教官として、大学院学生の指導もおこなっている。

加瀬 友喜 (かせ・ともき)
地学研究部・環境変動史研究グループ・研究主幹

ビカリアとは

・ビカリア (*Vicarya*) は、東アジア各地から産出する新生代の巻貝のなかま。日本列島では、およそ 1500 万年前の地層から産出します。この時代は地球規模の温暖期で、日本列島には熱帯の海が広がり、各地にマングローブ林が茂った内湾がありました。ビカリアは当時のマングローブの干潟に生息していたと考えられています。ビカリアの名前は、イギリスの軍人 Nathaniel Vicary に由来します。



N. Vicary がパキスタンで採集した標本 (大英博物館所蔵)

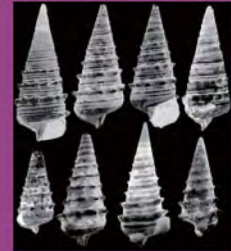


ビカリアの殻の紋様を復元する

・貝類の殻にはさまざまな色紋様がありますが、化石になると紋様はほとんど失われてしまいます。ビカリアの殻には、まれに色紋様の痕跡が保存された標本があります。また、紋様が見えない標本は、紫外線ランプを照射して撮影し、コンピュータで画像処理することで紋様を復元することができます。



←色紋様の痕跡が保存されたビカリア標本



紫外線写真撮影による色紋様の復元例



←紫外線写真撮影装置

ビカリアの採集・調査

・東南アジア熱帯島嶼の新生代貝類の調査の一環で、フィリピンとインドネシアでビカリアの調査を進め、多くの産地から試料を集めました。フィリピン東部の Batan 島では、島のあちこちに小規模な石炭を採掘する炭坑があり、珪化したビカリアが産出します。Batan 島の海岸には、路頭から落ちてきたビカリアがあり、ヤドカリに背負われているものもありました。



フィリピン・ルソン島北部のビカリアの産地



路頭から擲り出したビカリア

フィリピン・Batan 島のヤドカリに背負われたビカリア



フィリピン・Batan 島北 San Ramon 海岸の珪化したビカリア産地

“ビカリアの海”を復元する

・日本館3階北翼の「日本列島の生い立ち」の展示室には、今からおよそ 1500 万年前のマングローブ干潟を復元したジオラマがあります。このジオラマの中にあるビカリア模型の殻は、これまでの研究成果を取り入れ、黒褐色のバンドで彩色してあります。日本館3階でこのジオラマをぜひともご覧になってください。



日本館3階の“ビカリアの海”のジオラマ

日本館3階に展示中!